

生きいき憲法

日政京定

2011年8月6日(土) 生きいき憲法 第17号

発行 九条の会東京連絡会
〒101-0064 東京都千代田区
猿樂町 1-4-8 松村ビル 401
TEL 03-3518-4866
FAX 03-3518-4867
ホームページ
<http://www.9jo-tokyo.jp>
メールアドレス
mail@9jo-tokyo.jp

「脳」が「NO」

大原 穰子



三月十一日、東北を襲った大津波は途轍もなく大きく、それは東北の人びとの日常を打ち壊しただけでなく、私の心にまで大きくぶち当たり砕けたのです。

「穰子さん、頭がおかしくなったんじゃない？」
と言っている人がいると電話をかけてきてくれた人がいたけれど、本当にそうかもしれない。荒々しい津波の映像を観ていた私は、そのままベッドに倒れ込んでしまったのだから。

でも、「いつも学会でお会いする先生方は？」と心配になって電話をかけた。宮古大学の田中宣廣先生はご無事で、しばらくしてドキュメンタリータッチの長い長い手紙をくださった。

気仙語研究者の医師、山浦玄嗣先生は「僕は大丈夫。十五日の朝、早いけどNHKの教育番組に出て

いるので観て！」と元気なお声で嬉しかった。十五日、家族は皆まだ寝ている早朝、私は一人テレビの前に坐った。先生が気仙語に訳されたバイブルを手にインタビューに答え、そして荒れ果てた瓦礫の中を延々と歩かれているラストシーンを観て、私はベッドに倒れ込んだ。

福島原発事故で放射能汚染は限りなく広がっている。まだまだ広がっていくだろう。私の心は震えたままだ。

あれは、今から十年前の九月十一日。私はテレビを観ていたら、突然、ニューヨークの高層ビルに飛行機が突っ込む映像が目に飛び込んできた。それからの私は、全身から力が抜け、汗が滝のように流れ、体を拭いて着替えると、今度はガタガタと激しい悪寒に襲われる。何枚も毛布をかけ蒲団をかけ、そして汗だくになる。これを何度も繰り返す。家の外に足を踏み出せたのは、年が明けての二月になってからだった。

先日、診療所で看護師さんとそうした話をしていて、私が「心」と言ったら、即座に「脳」です」と言われた。そうか、「心」という情緒的な問題ではなく、「脳」が「NO」と言っているのだ、と納得した。

ということで、「心」も「脳」もしっかり立て直し、六十六年目の八月。「原発NO!」、「核兵器NO!」

そして、「改憲NO!」

(二〇一一年八月三日・記)

<6月20日・学習会講演要旨>

憲法を否定する教科書の実態と私たちの運動

石山久男（前・歴史教育者協議会 委員長）

「つくる会」教科書の中身は

① 侵略戦争と植民地支配正当化

日清・日露戦争は日本の朝鮮支配のための戦争であったことを無視し、ロシアが朝鮮を支配下に治めたら日本の独立は危うくなると脅威を強調したうえ、他の教科書は「国民は正義の戦争と信じ込まされた」と記述しているのに、「つくる会」は国民が一致協力した面を強調し、反戦論や重税批判など国民の苦しみは記述していない。また、韓国併合を武力行使によって進めたことを軽視し、併合後の朝鮮支配の実態も「学校も開設し、日本語教育とともにハングル文字を導入した教育も行った」「併合後、人口や農地が増えた」と賛美。

さらに、植民地・占領地の民衆に対する虐殺、強制連行、強制労働、慰安婦という名の性暴力、民族の生活と文化を奪う皇民化政策、略奪などをほとんど扱わず、逆に日本の戦争は「アジアの人びとを奮立たせた日本の行動」「日本が自国の存亡に関わる権益を防衛するための戦いであった」と扱っている。そ

して、太平洋戦争でも、「国民の多くはひたすら日本の勝利を願い、励まし合って苦しい生活に耐え続けた」と国民が一致して戦争に協力したと強調。沖縄戦での住民虐殺や強制集団死は扱わず、軍の責任を免罪し、国のために命をささげた「集団自決」として美化している。

② 天皇制を美化

歴史全体を、天皇中心の歴史として描いている。古代では神武天皇を大きく採り上げ、歴史の最後は昭和天皇で締めくくる。歴史が天皇と支配者の力によって動いたと教え、百姓一揆など民衆の願いや動きは無視。教育勅語を賛美する一方、日本国憲法を歓迎した世論や憲法を守り生かしてきた民衆運動は扱わない。こうして、国民主権より天皇の役割を強調し、科学的な歴史とは無縁の内容となっている。

③ 憲法を敵視

日本国憲法はアメリカに押しつけられた不当なものとし、明治憲法とは全く違う原理に基づいていることを理解させていない。自衛隊と安保条約をめぐる議論には触れず、自衛隊を軍隊として認知、海外派兵に積極的

姿勢を示し、国防の義務まで説く。また、基本的人権よりも「公共の福祉」の名のもとでの人権の制限と国民の義務を強調。他の教科書は「改正」は取り上げていないが、「つくる会」は憲法「改正」の項を設け「改正」は当然としている。

④ 原発推進

原発の安全神話をひきずり、危険性には何ら触れていない。「原子力発電では安全性の高い技術を確立」「増大するエネルギー需要をまかなうものとして期待されています」と、市民が原発と共存できるように取り組むことが求められていると記述。

「つくる会教科書」の批判

① について

侵略戦争と植民地支配の反省、戦争の否定は、戦後日本の原点・日本国憲法の原則・世界の共通認識である。しかし、「つくる会」教科書はこれらの原則を全面的に否定し、侵略と植民地支配の歴史の事実を目をふさぎ、戦争を美化している。戦争への国民の協力を促すことは、21世紀の世界の大勢と現代史の事実には無知な子どもを育てる日本が、アジアと世界から孤立する道へいっそう深くはまることとなる。

② について

国民が主権者であるという自覚を育てず、天皇中心の国家に

従うよう求めていることは、日本国憲法で否定された天皇主権体制と教育勅語の復活の狙いがある。

③ について

日本国憲法で放棄した戦争と軍事力を賛美し日本軍の復活を狙う記述は、20世紀以後の世界の大勢である紛争の軍事力による解決ではなく、平和的な話し合いによる解決という流れに逆行する甚大な時代錯誤に子どもたちを陥れる。憲法を生かすの

ではなく、憲法「改正」をあくからさまに主張している。

④ について

ここでも憲法の定める平和的生存権を無視している。

さいごに

01年に「つくる会」教科書が検定合格し、採択率0.04%。05年再び検定合格。杉並区、大田原市、都立と愛媛県立の障害児学校・中高一貫校で採択し、採

択率は0.4%。09年は横浜市、今治市に拡大して採択率1.8%に。今年は新聞がまったく報道しない。朝日新聞は01年と05年は社説で「ふさわしくない」としたが、今年は1社も取り上げない。国民は今年が採択の年であることを知らされていない。憲法をめぐる激しいせめぎあいの情勢のもと、憲法否定の教科書採択をゼロにすることは改憲策動に大きな意義があるから、不採択運動を推し進めていかなければならない。

(島田修一・記)

<レポート>

◇福島県、宮城県の九条の会との懇談会◇

7月22～23日、九条の会東京連絡会の事務局の島田修一・平野健が「福島県九条の会」と「みやぎ憲法九条の会」を訪問して、九条の会として震災・原発問題にどう向き合うべきか、また東京は両県に対してどのような援助ができるかをめぐって懇談をしてきました。以下、その様子を紹介します。(文責：福島は平野、宮城は島田一)

(1) 福島県九条の会との懇談

7月22日、福島県九条の会事務局を訪問しました。行く道すがら、せっかくなので線量計で放射線量を測ってみました。別枠にあるように福島に近づくにつれ放射線量は着実に上昇しており、福島市内では1.3～2.5マイクロシーベルト毎時は当たり前になっていました。ここで24

時間356日を過ごせば年間11～22ミリシーベルトを被曝する計算になります。事務局の方からも「不安と諦めのいりまじった複雑な感情が市民の中にじわじわ広がっている」との言葉がありました。

福島県九条の会からは、この間、次のような活動に取り組んでいるとの報告を受けました。

①福島県九条の会としては3.11から約1カ月の間にニュースの「大震災・原発事故速報版」を16号配信し、県内の九条の会の状況を詳細に伝えた。②7月11日には声明文「福島第一原子力発電所の『巨大人災』にあたって」を発表し、平和的生存権の侵害という点で戦争の惨禍と原発事故には共通性があること、また原発利益共同体と改憲推進共同体とは人的にも思想的にも

同じ土壌に根をおろしていることを指摘した。③関東を中心にいくつかの県外の九条の会に呼ばれて原発問題での講演を行なった。④避難した人や地元で事業を営んでいる人の記録を集めた「原発災害に関する討議資料」を現在作成中である。

原発問題について九条の会として何ができるかという点については、福島県九条の会でも正直迷いがあり、そのため声明を出すのに4ヵ月かかったと述べながらも、「草の根に広がっている九条の会だからこそ福島県内各地の様子を全国に伝えることができる」、また「原発問題と憲法問題の連関を押し出していく役割がある」との発言が出されました。懇談の結果、福島と東京との連携として当面次の2点が考えられることを確認しまし

た。①現在作成中の「原発災害に関する討議資料」を九条の会東京連絡会を通じて東京都内の各地域にも広く普及し、東京からはその代金の形で福島県の各地の九条の会に義援金を送る、②福島の九条の会から人を招いて東京の各地で講演会・学習会を開き、それを通じて福島現地の様子を学ぶと同時に、原発事故と改憲との地下茎での結びつきについて広めていく。今後も福島と東京とで連絡を取り合うことを約束して別れました。

<放射線量の計測値>

* 新幹線の車内（窓際）

東京	0.08 μ Sv 毎時
宇都宮	0.10 μ Sv 毎時
那須塩原	0.16 μ Sv 毎時
郡山	0.36 μ Sv 毎時
福島	0.23 μ Sv 毎時

（注）那須塩原～福島は0.24～0.54 μ Sv 毎時位の範囲で激しく揺れた。

* 屋外

福島駅前のバス停付近

1.37～1.27 μ Sv 毎時

福島市内の新居浜公園

2.55～2.21 μ Sv 毎時

飯館村役場玄関前

3.72 μ Sv 毎時（6月に個人で行った時の計測値）

（2） みやぎ憲法九条の会との懇談会

7月23日、みやぎ憲法九条の会の河相一成事務局長ら3名と懇談し、次の現状報告を受けました。

① 宮城県内では死亡・不明者は14,000名超。生業剥奪、解雇、自宅喪失など被害は甚大。仮設住宅への入居も生活費を自己負担しなければならぬため、南三陸町では仮設の入居拒否が70%、仙台市でも仮設1,500戸のうち628が空き家。とにかく、最低限の生活が確保できていない。

② 宮城県復興会議が開かれているが、メンバー12名のうち県内からは僅か2名、議長は三菱総研理事長、会議は初回は県内だったが以降はすべて東京で開催など、地元中心の復興会議とは程遠い。また、村井県知事が「漁港の特区制度」を主張し、漁業権を民間大企業に売り渡そうとしているが、県漁業協同組合が激しく反発・抗議している。他方、県民は県民センターを設立して要求書を県に提出、生協中心の食料品供給運動が展開され、水産特区を考える会も7月に結成された。

③ 九条の会の現状は、地域115会のうち会長ら中心メンバーが犠牲となった会が少なからずあり、復旧に悪戦苦闘し、運動に目を向ける余裕はなく、被災地では会議も開くことができない。しかし、11月5日、益川俊英氏を呼んで講演会「科学と平和」を開く。2,300名の会場だが、これをステップにしていきたい。

また、自衛隊支援に被災者は感謝しているが、感謝だけではすまない問題がある。震災と九条の関係も考えていきたい。できれば東京とも一緒に討議したい。報告後、要望を伺ったところ、①被害の実態をリアルに知って欲しい、宮城から出かけていくので是非呼んで欲しい。②義捐金は届かず、救援物資も余っている（女川町ではダンボール200箱余剰）。焦眉の要求は現金であり、他県の九条の会から寄せられた義捐金はみやぎ憲法九条の会が各会へ割り当て、大変感謝されている、とのことでした。

懇談お後、事務局の池上さんの車で津波に襲われた県南部の名取市と山元町を回り、ふるさと・地域を奪われた現実を前に呆然喪失となりました。

「福島県九条の会」事務局 〒960-8154 福島市伏拝字田中7-3 いげたマンション501

TEL 090-2843-7499 FAX 024-546-4410

ホームページ：http://www.geocities.jp/kenpou9jou_fukushima/

「みやぎ憲法九条の会」事務局 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト5階

TEL：022-728-8812 FAX：022-276-5160

電子メール：info@9jou.jp ホームページ：<http://www.9jou.jp/>

東京大交流会（仮）実行委員会の報告

<第2回実行委員会の報告>

「九条の会東京連絡会・東京大交流会（仮称）」の第2回実行委員会が6月20日（月）18時から東京労働会館会議室で開かれ、参加者は33人でした。

まず島田事務局長から報告。

(1)「九条の会講演会」が6月4日「未来世代にのこすもの私たちは何を『決意』したか」というタイトルで開かれ、2,000人の参加で成功した。(2)都丸哲也さんが高齢を理由に「東京連絡会」事務局代表を退任。(3)5月20日の大学学習会(渡辺治氏講演)を収録したDVDが完成、1枚800円で普及を開始。

次いで討議事項として次の2点の議題が提起されました。(1)東京大交流会（仮称）について①時期は来年6月の日曜日、②場所は私立高校か大学を探す、③規模としては全東京(23区と多摩の合同)で1,000名程度、④もち方としては全体会、分散会、分科会の3つ、⑤その目標は「震災・原発問題について九条の会らしい柔軟な取り組みを探求し、その陰で進行する改憲派の動きを警鐘をならす活動に取り組む。そうした活動を重ね、来年6月に再び一堂に会して、その到達点を確認し、東京における九条運動を「一里塚」から第二段目へと飛躍させる」ことにある。(2)九条の会として震

災・原発問題にどう関わるかをめぐって意見交換をしたい。

以上の報告・議題提案を受けて、自由に討論しました。以下は主な発言です。

●事務局：宮城の九条の会から「とにかく見に来い」と言われた。また福島県の九条の会とも連絡が取れる。両県の会を訪問して懇談したいと思う。

●大田区：大交流会について、分散会と分科会はどう違うのか？

●事務局：分科会はテーマ別に集まり、分散会は特にテーマを決めずに交流するものです。

●事務局：大交流会にむけて「小学校区単位につくる」という目標でとりくむことが大事。交流でもそのテーマを取り上げたいと思う。

●目黒区：「九条改憲を許さない」が一致点だが、少し固く・狭くなっているように思う。もっとおおらかにとらえればやるべきことは沢山ある。来年6月までに何に取り組むのが大事。

●事務局：来年6月までに何に取り組めたか、それを確認するのが大交流会。震災・原発問題では「安全」がキーワードになっているが、そもそも日本の「安全」が九条運動の原点のはず。

●事務局：大交流会の内容は情勢次第で変わる。今の段階で

は日程と場所だけ確定させておけばいいのではないか。

●大田区：今日の学習会にあったように「つくる会」系の教科書を採用させない運動が大事。NHKの「坂の上の雲」は明治期から太平洋戦争への歴史観を修正しようとしている。こうした動きを批判する必要がある。また労働組合は、いま本来の役割を果たしているのか、それを問わなければいけない。今そういう課題がある。

●湯島：毎年5月3日に開かれる憲法集会に九条の会として参加することを提案したい。のぼりを持って、宣伝もして、デモをやろう。

●あきる野：九条の会の出発点は「有権者の過半数を獲得しよう」だった。しかし、まだまだ1.5%ぐらいの到達ではないか。あきる野でも九条の会の名前をもっと前に押し出していきたい。

●西片町教会：3.11以降、自衛隊が救援活動で評判を高めた。そこにはこれを好機に本物の軍隊にしていこうとする意図があるが、実は逆に自衛隊はその非軍事的役割ゆえに評価を高めたのであって、逆に脱軍隊化を求めるチャンスなんじゃないかと思う。

●江北：今日、署名行動をしたが、震災・原発問題でないと反応が良くない。

●あきる野：大交流会のもち方

だが、少人数で多数部屋でやるより、大人数で少数部屋の方がいいと思う。

- 事務局：いや、でも少人数でやることも大事だと思うが。
- 大田区：集まっても、知り合うことはできるが、本当に交流するというのは大変。イメージがわからない。
- あきる野：ホームページを持っている会は多いけどなかなか更新が大変。facebook など新しいツールを考えてみたほうがいいのかも。

<第3回実行委員会の報告>

第3回実行委員会が8月1日(月)18時より豊島区民センターで開かれ、参加者は33人でした。

まず事務局から、この間の取り組みについて報告。(1)7月22日に「福島県九条の会」と、(2)翌7月23日に「みやぎ憲法九条の会」と懇談した。(3)ニュース「生きいき憲法」づくりのアンケートのお願い。(4)11月19日に開かれる第4回全国交流集会の運営委員会が発足したこと。(5)前回学習会で学んだことをふまえ、「東京連絡会」の事務局員一同名で東京都教育委員会に『「つくる会」系の歴史・公民の教科書は歴史認識を歪め憲法九条の価値を否定するものであり、これを採択しないように」との申し入れをした。しかし7月28日、東京都教育委員会は都立中学校で育鵬社と自

由社の教科書を採択した。

来年の「東京大交流会」は、7月1日(日)が有力!

次いで、来年の「東京大交流会」は7月1日に正則高校で開くことが最有力候補になっていると近況報告の後、どのような持ち方にしていくか意見を出し合いました。

- 町田：全体会では原発問題が大事でもあり安齋育郎さんを招んでほしい。
- 事務局：事務局の中の議論では、美術や詩や俳句など分野別の九条の会に作品を展示してもらおうとか、各九条の会が模造紙に自分たちの活動をまとめて貼り出すとか、東京の先進的な取り組みをしている会に詳細な報告をしてもらおうとか、そういうアイデアが出ている。全国交流集会とは違う独創的で、東京ならではの交流会にしたい。
- 東大和：秋に「第2回憲法まつり」を準備しているが、テーマをどうするかで悩んでいる。東京の九条の会として震災復興についてどんなふうに関われるのかで悩んでいる。
- 練馬：私は7月6～9日に宮城県石巻市にボランティアに行ってきた。聞き取り調査、バザー、家財道具の廃棄などの手伝いをしてきた。現地はやっと自立にむけて動き始めたばかり。自立できない人は仮設住宅には移れず、避難所に残っている。物資も(余っ

ている所もあるようだが)まだまだ必要とされている。孤立感がある。寄り添うことが大切だと感じた。

- 弁護士：私は「原発なしの生活」をどうやっていくのか、その政策づくりを考える必要があると思う。みんなで作りたい。秋ころには私案を出すので議論して欲しい。
- 目黒：来年の大交流会にむけて活動を作っていくことが大事だと思う。
- 事務局：その活動を結集する場として大交流会を活かしてほしい。一律に提起するわけではないが、模造紙にまとめて張り出すなどして、すべての会から活動紹介されるような場にしたい。
- 江北：宮城の九条の会では「いま現金が必要」と言われたとのことだが、お金(カンパ)を集めるシステムを東京の九条の会では作らないのか?
- 大田区：それは九条の会の仕事ではないのではないかと。「現金が求められている」という声を伝え広めることは大事だが、お金集めまでやるのはどうかと思う。
- 事務局：私も個人的にお金を送って喜ばれた経験はあるが、事務局としては義援金を集めるシステムをつくる議論は考えていない。
- 東大和：私たちの会も、来週、映画上映会をして、その収益の半分を福島に送る計画にしているが、そういうことは個々の会の取り組みとしてやればいい。

●下町人間：お金を集めてもどこに渡すのかという問題がある。日赤では多額の義援金が集まっているが、まだそれが配られていないと聞く。

●練馬：「日赤にわたす」と言うよりも「現地の九条の会にわたす」と言った方が集まるかも知れないね。

●事務局：宮城には県内各地に100 ぐらいの九条の会があるが、県の会がそれぞれの実情をよく把握している。県の会にわたせば必要に応じてうまく配分してくれると思う。

●大田区：次のニュースで福島・宮城との懇談について報告を書いて欲しい。そこに「現

金が必要」という現地の声を紹介して、それぞれの会の連絡先を載せてくれれば送りやすくなる。

●事務局：そうしましょう。(※別項掲載)

◇地域九条の会の取り組み案内◇

8月7日(日)午後13:30～代沢地区会館で、ベトナム戦争ドキュメント『ハーツ・アンド・マインド』観賞と話し合う会。(世田谷：代田九条の会)

8月7日(日)午前、午後の2回。あきる野ルピア・ホール、ドキュメンタリー映画『ミツバチの羽音と地球の回転』上映会。(あきる野九条の会)

8月13日(土)～14日(日)“北区 平和のための戦争展”(北とぴあ地下1階)に参加。展示と署名。(田端・中里九条の会：03-3828-1514 村田)

8月21日(日)第74回落合中井九条のつどい14:00～落合第二地域センター。「福島県飯館村における自立の村づくり」福島大学教授・松野光伸さん。(落合・中井九条の会：03-3951-0673 木村)

8月15日(月)「終戦記念日」宣伝行動11時～12時。まちだ109前でチラシとティッシュ配

布、署名を集め、リレートークと市民との対話。(憲法を守る町田の会：042-728-9134 町田教育会館内)

8月21日(日)第7回こまえ平和フェスタ2011一向き合おういのち・つなげよう世界
お話「3.11以後の平和と共存—国境を超えた安全共同体をめざして」姜尚中さん(東大大学院教授)ほか音楽、舞踊、展示など。13:30～ 狛江エコルマホール。協賛金100円以上。主催：こまえ平和フェスタ実行委員会。

8月27日(土)渡辺治さんのDVDをみる会13:00～スペース9(江北九条の会：03-3854-1009 沢田)

8月27日(土)「アフガニスタンに生命の水を」ペシャワール会医師・中村哲さん。14:00～豊島公会堂。前売券1000円。主催：商社九条の会・東京。協賛：豊島九条の会、銀行九条の会、損保九条の会、東京・中央区九条の会

9月4日(日)「子どもの未来を高校教育から考える」講師・土肥信雄さん(元都立三鷹高校校長)13:30～ 経堂南地区会館。(世田谷区・桜丘九条の会：03-3426-2377 小野)

10月15日(土)練馬北部地域九条の会講演会：13時30分～早宮地域集会場。「原発と憲法」九条の会事務局・小澤隆一さん。(ねりま九条の会：03-3921-8023 大柳)

☆大田九条の会からお願い

大田九条の会は、昭和20(1945)年6月から10月の間に岩手県柴波(しば)郡矢巾(やはば)町徳田村に集団学童疎開をされた方を探しています。盛岡市の少し南に位置する矢巾町の「矢巾九条の会」が地元の徳田国民学校全焼事件について調査したところ、昭和20年に約4ヶ月間、東京大森区の「東調布第三国民学校」4年生男女児童37名が集団学童疎開で入村し、地元豪農の吉田家に起居したこ

とが分かりました。矢巾九条の会は疎開した元児童と交流を希望されています。大田九条の会は、区内で情報提供を呼びかけていますが、残念ながらまだ有力情報がありません。いろいろな事情で移転されている方も多いでしょう。戦後66年、76歳前後になるでしょう。お心当たりの方がいらっしゃったら情報をお寄せ下さい。大田九条の会：
Tel&Fax：03-3754-7405

九条の会・第4回全国交流集会 11月19日(土) 日本教育会館で

6月4日の九条の会講演会で発表された第4回全国交流集会に向けて、7月1日に第1回運営委員会が発足しました。分野別の「会」と東京や近県の「会」

に呼びかけられ、約30人が参加しました。東京からは、東京連絡会事務局のほか、目黒、世田谷、大田、練馬、中野、多摩から出席。

次回の会合は、8月30日(火)18時から、神保町区民会館で開催されます。

☆東京連絡会・事務局から

渡辺治さん講演DVDの普及を

東京連絡会が「この国は抜本的に変えるしかない」と緊急学習会を6月20日に開催。渡辺治さん(一橋大学名誉教授・九条の会事務局)の講演『大震災・原発事故後の日本の行方と運動の課題』は大好評でした。参加できなかった人たちにぜひ聴いてほしいとの希望に応じて、D

VDを作成しました。1枚800円で頒布しています。江北九条の会の沢田さんから「地方の知人に送ってたいへん喜ばれています」と嬉しい報告が寄せられています。申込みは事務局へ。

次回東京大交流会(仮称) 第4回実行委員会

日時：8月29日(月)
18時～20時
場所：けんせつプラザ東京
(JR大久保駅下車)

◎学習会 核兵器廃絶と原発ゼロへ 2011 原水爆禁止世界大会報告を含めて 川田忠明さん＝予定(日本平和委員会常任理事) 資料代：500円

学習講演会

「チェルノブイリ原発を視察して」中西繁さん

九条の会東京連絡会の東京大交流会(仮称)第3回実行委員会(8月1日)では、第1部の学習講演会で画家の中西繁さんが「チェルノブイリ原発事故」について映像を示しながら語りました。

2000年、54歳のときに建築家から画家に転身。その稀有な芸術家の視点が、チェルノブイリへの問題意識とつながったのです。

「人類の『負の遺産』を絵画の世界で見つめることによって、未来の進むべき方向を考えるきっかけになれば」と、「廃墟から再生へ」のテーマになっています。

4月に高知市で「高知夕景」の大壁画を制作展示し「廃墟と再生」中西繁展を開催。12年に沖縄、14年にニューヨーク国連本部ビルで予定。旺盛な制作意欲が「阪神大震災」「東日本大震災」の現場へ向かわせているのでしょうか。

.....

インターネットで<JCJCAST>にアクセスしてください。
動画中継を見ることができます。

